

平成27年度 長崎県立佐世保中央高等学校昼間部 自己評価（最終）

H28.1.29

昼間部キャッチフレーズ	「ここにある！ 君の輝く場所！」
学校教育目標	(1) 佐世保中央高校の全職員は、保護者とともに生徒の夢の実現のために全力を尽くす
	(2) 佐世保中央高校の全職員は、生徒及び保護者、地域の方々と心のふれあいをめざす
	(3) 佐世保中央高校の全職員は、すべての生徒とともに凛とした生き方をめざす

<評価> 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

評価項目	No.	具体的方策	H27.9	H28.1	H26
<b>1. 学校経営</b>					
重点目標	1	佐世保中央高校の「顔」として、不撓不屈の中央魂の継承と発揚に努める。	3.0	3.0	2.8
	2	授業規律を確立し、基礎学力ならびに応用力の充実に努め、学力の向上を図る。	2.7	2.7	2.5
	3	教育課程の再編成や学校行事の活性化、朝の読書など昼間部の特色づくりに努める。	3.0	3.0	3.2
	4	中高連携や生徒及び保護者面談を通して、個別指導を強化しながら、全職員で情報を共有し、特別支援教育の充実に努める。	3.1	3.2	3.2
<b>2. 教育活動</b>					
教科指導	5	各教科・学年・教務の連携を図り、生徒の進路希望に適した履修指導を行う。	3.1	3.0	3.1
	6	生徒の実態に応じて教材を精選し、教育機器を用いるなどして指導方法を工夫する。	2.7	2.7	2.8
	7	担当教師間で評価規準を作成し、共通の基準により多角的な評価を行う。	2.7	2.8	3.0
総合的な学習の時間	8	職業理解に関する様々な活動を通して、自己実現を目指す。	3.0	2.8	3.0
	9	生徒一人ひとりのキャリア発達を支援しながら、自己決定力・コミュニケーション能力の育成を目指す。	2.9	2.9	3.0
<b>3. 組織運営</b>					
各種委員会	10	各種委員会の目的や性格について、全職員の共通理解を図る。	3.0	3.0	2.8
	11	各種委員会での話し合いの結果を、教育活動や学校経営等に生かす。	2.9	3.0	2.9
校内研修	12	生徒の実態や自校の教育課題を踏まえ、全職員による校内研修を行う。	3.1	3.2	3.4
	13	授業見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。	2.7	3.0	3.3
現職教育	14	教育センター等の各種公的な研修会に積極的・計画的に参加し、資質向上を図る。	2.8	2.9	3.0
	15	研修内容によっては、研修受講者がその内容を職員に知らせる機会を設ける。	3.2	3.2	3.1
<b>4. 教育環境</b>					
学校環境の整備	16	地域清掃活動や日々の清掃を実施し、校内の環境美化に努める。	3.1	3.1	3.1
情報イッラの整備・充実	17	校務事務支援システム等を活用した出席統計・成績処理などの校務処理を適切に行う。	3.4	3.4	3.5
	18	情報セキュリティ対策管理要綱に則してデータ管理を確実にを行う。	3.3	3.2	3.3
<b>5. 開かれた学校づくり</b>					
保護者や地域関係機関との連携	19	P T A総会やP T A評議委員会の在り方を見直し、保護者との連携を強化する。	3.1	3.1	3.0
	20	生徒の状況について、学校と保護者が緊密に連絡・情報提供等を行う。	3.1	3.0	3.2
	21	近隣地域の高校・中学校等との情報交換や連携に努める。	3.1	3.0	3.0
	22	H P ・メールメイトを活用し、保護者・地域に向けて学校情報の発信を行う。	3.4	3.3	3.3

6. 校務分掌					
教 務 部	23	授業時間の確保、科目選択ガイダンスなどを通じて学習指導の充実に努める。	3. 1	3. 2	3. 2
	24	多様な生徒に応える効果的な教育課程を研究し、単位制の再構築を図る。	3. 0	3. 1	3. 0
生徒指導部	25	生徒理解及び把握に努め、個々の生徒に応じた指導によって活気ある生徒集団を作る。	2. 9	3. 0	3. 0
	26	社会人として通用する挨拶・マナーを身につけさせ、「心の制服」を作る。	2. 4	2. 6	2. 4
進路指導部	27	自己の適性と能力を把握させ、早期に進路目標を具現化し、自己実現に向けて積極的な態度を養う。	2. 9	3. 0	2. 8
	28	各学年次との連携を密にし、各段階に応じた進路指導の充実に図り、進路目標達成に向けた進路支援を行う。	3. 0	3. 2	3. 0
生徒会指導部	29	生徒会執行部を軸として生徒の自主性を伸ばす生徒会活動を目指す。	3. 2	3. 4	3. 3
	30	地域清掃など地域に貢献できる学校行事を工夫する。	3. 4	3. 5	3. 4
保健美化部	31	歯科講話など各種の講話を通じて自他の身体や命を大切にすることを育てる。	3. 1	3. 3	3. 2
	32	校内の環境検査・安全点検を実施し、学習環境の整備と校内美化に努める。	3. 0	3. 1	3. 0
教育相談部	33	相談しやすい教育環境を作り、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを十分に活用する。	3. 4	3. 6	3. 5
	34	情報交換会や職員研修によって全職員で幅広い情報を共有し、多様な生徒の理解と支援に努める。	3. 4	3. 5	3. 4
7. 特別支援教育					
特別支援教育	35	特別な支援を必要とする生徒の校内支援体制（校内委員会、校内研修、特別支援教育支援員・自立活動担当教員の活用等）を整える。	3. 4	3. 4	3. 5
	36	個別の支援計画等を作成する。	3. 2	3. 2	3. 1
8. 学年経営					
1 年 次	37	生活時間の切り替えや他者との信頼関係を築くことができる人間性の涵養に努める。	2. 5	2. 4	2. 4
	38	行事に真剣に取り組む心や他者を思いやる心を育てる。	2. 7	2. 8	2. 7
2 年 次	39	規律ある生活習慣と態度を身に付けさせ、主体的な学習を通して学力の向上を図る。	2. 5	2. 7	2. 7
	40	進路実現に向けての学習を通して社会性を身に付けさせる。	2. 8	2. 8	2. 8
3 年 次	41	適切な学習目標を設定し、全員の進路実現を図る。	3. 1	3. 1	3. 1
	42	社会人としての自立を見据え、社会性や協調性を育む。	3. 0	3. 0	2. 7
4 年 次	43	規律ある学校生活をおくるために、学習習慣やマナーを身に付けさせる。	2. 3	2. 3	2. 4
	44	ボランティア活動などを通して豊かな心を育てる。	2. 5	2. 5	2. 6